

小松島名所案内

小松島のいわれ

昭和50年までは、原町小田原字南光沢とか井戸沢、新堤などと呼ばれていました。なぜ小松島と呼ばれたかというその昔、露無・宝蔵院・檜の木下田中堀など一帯は田んぼでありました。そこでこの田んぼの用水池として、与兵衛堤とひとしく七北田団地に深く食い込んだ谷を堰き止めて堤を造りました。

この堤の格好が丁度エビに似ていたところからエビ堤と言われたといえます。また一説には、よく堤でエビがとれタカエビの産地であったところから、エビつつみといわれた説もあります。その後、この周辺は実に風光明媚で、殊に南光学園側と北の児童公園の所には小さな島があって、そこにはきわめて枝振りのよいアカマツが2、3本ずつ生えて、しかも日本三景の一つである松島を連想させる素晴らしい景観をなしており、その小さな松島のイメージからはじめて小松島と俗称したものと伝えられています。

さらにもう一つ、小松島にふさわしいもので布袋竹が自生していたことがありました。これは大正年間に竹の子飯用にと当時松島の福浦島から移植したといわれ、昔から松島とは大きな繋がりがあったことがうかがわれます。

高松のいわれ

文治5年（1198年）8月、源頼朝が藤原泰衡征伐のとき、この地方は松の大木が生い茂っていたので高松の名がついたとされています。頼朝はこの辺に本陣をおき戦勝を祈った由緒ある地で、頼朝はこの松のあたりを高松と名し、その後、石巻日和山城主になった葛西清重に命じてその保護に当たらせたといわれ、明治初年になり第二師団がおかれるにあたり、このあたりの松が多く伐られ兵舎の建築に用いられたといわれています。

瞑想の松



慶長の初め、国分彦九郎盛重が天神社の霊地を穢さぬため記念として植えられたものといわれています。

文豪高山樗牛が旧制二高生だった頃、よく樹陰に座して瞑想にふけた所として有名です。かなわぬ恋を嘆いて座したという説もあります。

樗牛は、東京帝国大学哲学科在学中に、新聞社懸賞小説に応募した「滝口入道」が入選しました。その後はニーチェ研究に傾倒し、晩年は日蓮研究にいそしんだが31歳の若さで病没しました。

『いくたびかここに真昼の夢見たる
高山樗牛瞑想の松』
土井晩翠の歌碑
(東北薬科大学校内)

露無の里

今から約800年前、源頼朝の奥州討伐のとき追っ手を逃れた藤原忠衡の姫（当時4歳）は、乳母小萩と共に小萩の夫の故郷である福沢をめざして落ち延びてきましたが、夕暮れ道に迷って松の根元で一夜を明かしました。朝ふと気がつくと、この付近一帯には不思議にも朝露がまったく降っていなかったという伝説があり、この場所が露無発祥の地といわれています。

『雨が降れ 風が吹くとも いとはねど 今宵一夜は 露無の里』(小萩)

標柱は、元々仙台市により小松島小学校西門前に建立されたそうです。また、露無は俳聖芭蕉が弟子曾良と共に権現宮（東照宮）参拝後の通り道にあたる玉田横野（現東照宮から高松地区万寿寺一帯という説）を経由して、榴ヶ岡の天神（宮城野区現榴岡天満宮）や木の下（若林区木下現聖和学園付近）方面への歌枕『おくのほそ道随日記』に記した探訪の旅として重要な道筋にあたります。（標柱 仙台市交通局「小松島三丁目」バスのりば）



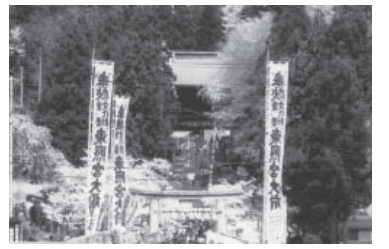
文化遺産 東照宮

現在、東照宮が鎮座している一帯はその昔、玉手崎と呼ばれ天正19年10月徳川家康公が葛西大崎一揆討伐の視察を終え、この地で藩祖伊達政宗公と宿陣され、発神ゆかりの場所として社地に選ばれたといい伝えられています。

伊達家は徳川家と縁故深く正宗公の長女五郎八姫が家康公七男平忠輝に嫁ぎ、二代藩主忠宗は二代将軍秀忠公養女振姫を夫人として迎えています。

また、正宗没後領内の大火・大洪水等により重大な財政危機に陥りましたが、幕府の物心両面の援助により危機を脱し、仙台藩の基本的体制を確立することができました。このような関係から徳川幕府に対する尊崇感謝の標として、二代藩主忠宗が東照宮を仙台に勧請しようと、幕府の裁許を得て慶安2年8月普請始を行い、本殿唐門・唐堀・幣拝殿・本地堂・御供所・手水舎・鐘楼・隨身門・応鳥居・別当仙岳院等一切が完成したのが5年後の承応3年でした。

社殿は七宝家具を始め、金箔押の彫刻で装飾するなど伊達文化の粋を結集したものであります。以来、伊達家の守護神として尊崇され、明治12年郷社、大正4年県社等の変遷を経て、昭和55年6月、木工事、彩色工事等により創建当初の荘厳華麗な姿に修復され、ほとんどが県指定文化財や国指定重要文化財で、その荘厳な建築物は参拝者を感動させています。



萬壽寺



伊達家四代藩主綱村公（1659～1719）が元禄11年（1698年）建立したお寺で七堂伽藍、極彩色絢爛豪華と記録されています。

この萬壽寺には、綱村公の正室仙姫「春日局の曾孫」の墓所があり、その霊屋門（唐門）は青葉区新坂町の大願寺の山門（仙台市重要文化財に指定）として現存しており、この山門を見ると当時の萬壽寺の豪華さが偲ばれます。なお仙姫の墓所は、昭和36年に改葬され孝勝寺の政岡の墓の隣に移されています。また、萬壽寺境内にコンコンと湧き出る幽泉があり、これを野田の清水と称しています。

常盤台霊苑

小松島小学校北隣の丘陵にあります。通称陸軍墓地とも言われています。霊苑は明治時代早々に軍隊が編成されて以来、在隊中に病没した軍人軍属を合祀するために設けられた墓所です。桜木の満開時、5月のサツキの開花時には贅沢なくらい美しい丘になります。



新堤沼ほとたるの里



近くの都市計画道路の建設に伴い、地下水の湧出量が減少し水位が下がるようになりました。この沼から流れ出す細流には、メダカやアメリカザリガニが生息しています。また、地域の自然愛好家の皆さんたちが長年ホタルの幼虫を放して夜に観察会を開いています。蛍の光が明滅して飛び交う様子は、真夏の夜の夢を彷彿とさせてくれます。この細流をたどると与兵衛沼に行きつきます。ここの山林丘陵地も普段は静寂にまつまれているので、散策は大人の人と行くようにしてください。

(株)阿部幸商店仙台味噌醸造高松工場

寒仕込みを頑なに守り続ける仙台味噌醸造元の老舗（文治元年・西暦1864年創業）です。今も巨大な杉樽を使用してじっくりと時間を掛け、時間を掛けて仕込んでいます。醤油も商っています。味噌は量り売りにも応じています。3年生が地域学習で毎年見学させていただいています。（高松一丁目16-23）



【参考出典等】

角川日本地名大辞典（角川書店）仙台市史（仙台市史編纂委員会）宮城県百科事典（河北新報社）宮城県百科事典（河北新報社）宮城県風土記（旺文社）図説宮城県の歴史（河出書房新社）『連合会報』（小松島学区町内会連合会）小松島地区平成風土記（小松島地区平成風土記作成委員会）他 聞き取り 現地調査